

# バルトレックス(バラシクロビル錠)500mg服用ガイド

## 用法と用量

バルトレックスは疾患・病状によって用法や用量が変わっていきます。自身の病態を正しく把握し、正しい用法用量で服用してください。

### ●単純疱疹(口唇ヘルペス・性器ヘルペス)

通常成人はバルトレックス(1錠に有効成分としてバラシクロビル500mgを含有)を1回1錠、1日2回朝晩に服用します。

服用期間の目安はおよそ5日~です。

基本的には5日間で完治しますが、初めて発症した場合などは症状が長引くこともよくあるため一概には言えません。

### ●帯状疱疹・水ぼうそう

通常成人はバルトレックスを1回2錠、1日3回朝晩に服用します。

服用期間の目安はおよそ7~10日です。

### ●性器ヘルペスの再発抑制

年に6回以上性器ヘルペスの再発を繰り返すという方はバルトレックス低用量を長期間服用することで発症の予防が可能であり、国内で保険適応も通っています。

通常成人はバルトレックスを1回1錠、1日1回継続的に服用します。

服用期間は長期間で、数ヶ月~1年となります。

症状の有無に関わらずバルトレックスを継続服用することで体内に潜んでいるウイルスの数や活動を抑えます。

どの場合でも年齢・症状・身体の状態によって適宜増減することがあります。尚、小児でも体重が40kg以上であれば通常と同様の用法用量になります。

バルトレックスは食事の影響をほとんど受けないため食事のタイミングを気にしなくても構いませんが、胃

への負担を減らしたいのであれば食後の服用をお勧めします。

バルトレックスを飲み忘れた時は、気がついた時に1回分を服用してください。次の服用時間がすごく近い場合(2~3時間以内)は1回分を飛ばしましょう。2回分を一度に服用しないでください。

## 併用禁忌薬

バルトレックスと併用できない薬は特にありませんがアシクロビル(商品名ゾビラックス)などバルトレックスと同様の抗ヘルペスウイルス薬とは原則併用しません。

禁忌ではありませんが、飲み合わせに注意が必要な薬が幾つか存在します。

### 併用注意薬

#### ●痛風治療薬

・プロベネシド(商品名ベネシッドなど)

#### ●胃薬

・シメチジン(商品名タガメットなど)

上記の薬剤はバルトレックスの排泄を阻害するため、バルトレックスの血中濃度が上がり副作用の発現リスクが高まる恐れがあります。

#### ●免疫抑制薬

・ミコフェノール酸モフェチル(商品名セルセプトなど)

上記の薬剤はバルトレックスとお互いの排泄を阻害するため、両薬剤の血中濃度が上がり副作用の発現リスクが高まる恐れがあります。

#### ●喘息治療薬

・テオフィリン(商品名テオドールなど)

バルトレックスと併用することでテオフィリンの血中濃度が上がるため、テオフィリンの副作用の発現リスクが高まる恐れがあります。

何らかの疾患で薬を定期的に服用している方は、バルトレックスの服用を開始する前に必ず医師か薬剤師に相談してください。

# 服用にあたっての注意点

## ●服用時

バルトレックスは錠剤が比較的大きいので、特に小児や高齢者の方は喉にひっかからない＆詰まらないように十分な量のお水や白湯で服用してください。ピルカッターなどで錠剤を割って服用しても構いません。

また、脱水症状による尿量の減少がバルトレックスの腎障害の副作用の発現リスクを高める恐れがあります。その点からいっても、バルトレックスを普段より多めのお水や白湯で服用し、こまめな水分補給をするように心がけてください。

## ●副作用について

バルトレックスは安全性が高く、副作用の少ない薬ではありますが、稀に副作用の報告がありますので注意が必要です。

### <軽度の副作用>

頭痛、腹痛、下痢、吐き気、めまい、眠気、発疹、光線過敏症

軽度の消化器症状などであればさほど心配いりませんが、症状が重い場合・一向に改善しない場合・皮膚に異常をきたした場合は重大な副作用に繋がる恐れがあるので服用を中止して早めに受診してください。

### <重大な副作用>

アナフィラキシーショック、間質性肺炎、急性腎不全、重い精神神経症状、血液障害、皮膚粘膜眼症候群、肝障害、膵炎

バルトレックス服用後に何らかの明らかな身体の異常をきたした場合は服用を中止してすぐ受診してください。

## ●バルトレックスを服用できない方

バルトレックスの有効成分バラシクロビルでアレルギー反応を起こしたことがある方は服用できません。

また、バルトレックスは腎臓で排泄される薬であるため重い腎障害を持つ方は服用できない場合があります。

## ●服用に慎重な注意が必要な方

腎障害、高齢者、妊娠中・授乳中の方は禁忌ではありませんが服用に慎重な注意が必要です。これらに当てはまる方はバルトレックスを服用する前に必ず医師に相談してください。

妊娠中・授乳中においては、国内では慎重投与ですがFDA（アメリカの厚生労働省的な機関）での「薬剤胎児危険度分類基準」にてバルトレックスは危険性無しに分類されているため、妊娠中・授乳中でも安心して服用できるとされています。ただし、乳汁中にバルトレックスの有効成分が移行したと

う研究結果があるためバルトレックス服用中は授乳を避けることを推奨します。

胎児の器官が形成される妊娠初期（～15週）は胎児が薬の影響を非常に受けやすいため、自己判断での服用は控えて必ず医師か薬剤師に相談してください。

## 最大限の効果を得るために

ヘルペスウイルス感染症を発症したら一刻も早くバルトレックスの服用を開始することが治癒において非常に重要なポイントになります。

発症後（自覚症状が現れ始める時）72時間以内でのバルトレックス服用で、重症化を防ぎ治癒を早めることができると言われてしています。

これはバルトレックスはウイルスの増殖を抑制する薬であるため、ウイルスが活発的に増殖する段階である発症初期に服用しなければ高い抗ウイルス効果を発揮することができないからです。

特に再発性のヘルペスにおいてはウイルスの増殖期間が短いため、発症後24時間以内にバルトレックスを服用する必要があると言われてしています。

また、飲み忘れが多数あるとバルトレックスの抗ウイルス効果が減弱して症状が長引いたり治癒しかかっても再燃したりする恐れがあります。

治療有効域の血中濃度を一定させることが大切です。バルトレックスを正しい用法用量で飲み忘れのないようにしっかり服用するように心がけてください。

バルトレックスは「早く」「正しく」服用することで、性器・口唇ヘルペスや帯状疱疹などのヘルペスウイルス感染症に対して90%以上と確実な治癒効果を発揮する薬です。臨床の現場でも、ヘルペスウイルス＝治療はバルトレックスが断トツで主流です。

もしもバルトレックスを適切に服用していても改善が一向に見られない・悪化するという場合はヘルペスウイルス感染症以外の疾患の可能性も高いのですぐ受診してください。

## ●その他

ヘルペスウイルスは体内に潜伏しているウイルスです。普段は潜んでいるだけですが、疲労・ストレス・風邪などの感染症・基礎疾患など様々な要因で身体の免疫力が低下すると活動を開始してヘルペスウイルス感染症を発症します。普段不規則な生活を送っていて疲れている・働きすぎ・ストレスが溜まりやすいなどという方は生活習慣の改善や休息もヘルペス発症&再発を防ぐために重要です。

口唇ヘルペスや性器ヘルペスは接触感染で人にうつる感染症です。タオルなどから感染する可能性もあるので、発症期間は周りにうつさないよう配慮や注意が必要です。